

神社境内に建つ「和」モダンな家



周辺道路や境内への圧迫感を和らげるように屋根形状を工夫した外観

奈良時代に遡る歴史をもつ神社で代々神職を司る宮司のご勤番所で、与えられた課題は、「いかに境内に馴染むか」である。実は、私への設計依頼の前に地元工務店による計画が進められていたが、それは大きな2階建てのALC風の建物が境内に大きな窓を向けて建つプランだった。境内に立つと白塀の上に大きな引違窓がそのまま見える風景は、どちらからもすこぶる居心地が悪く思え、最初に思い付いたのが伝統様式の「厨子(ツシ)2階建て」を基本に、高さを抑えた屋根裏のある建物であった。カルロ・スカルパの2重円の窓を虫籠窓に見立て、曲げ木による窓制作を指物師に依頼した。下部の下屋と相まって境内横に建つ控え目な意匠の勤番所が誕生した。(株)エーアンドシー設計

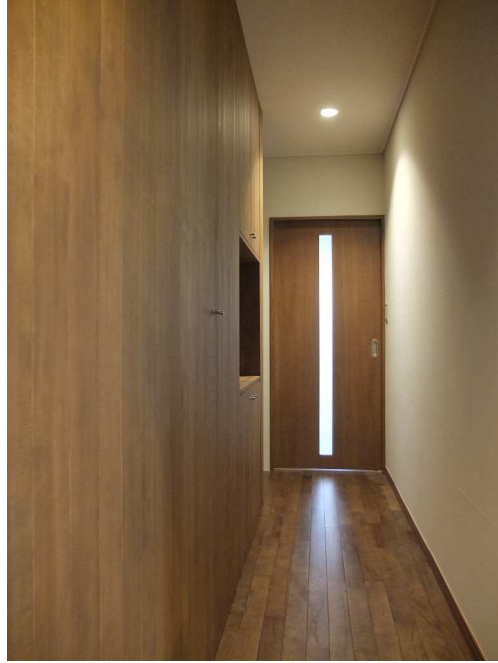


モダンな虫籠窓が特徴的な中庭側外観

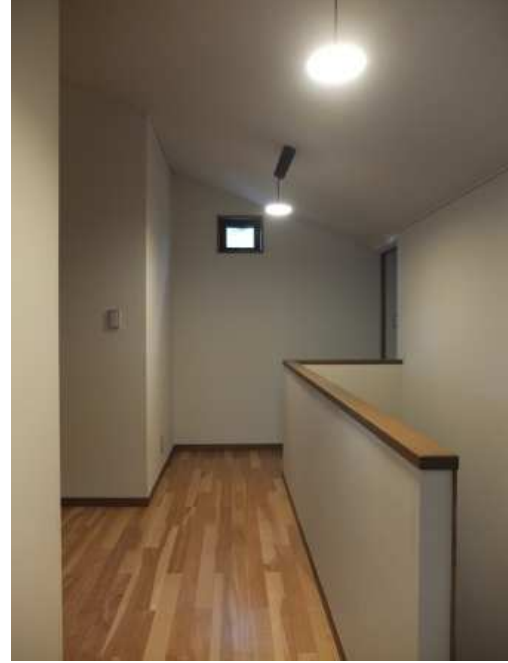
神社境内に建つ「和」モダンな家



玄関



1階廊下



2階廊下



L



D



K



納戸



子供室



インナーバルコニー